

ニちゃん

徳島市立高
歴史研究部

徳島市立高校の歴史研究部と徳島文理高校の郷土研究部が、東京都内で行われた「高校生ポスターセッション」(日本考古学協会主催)で研究成果を発表した。両校とも徳島市出身の考

古学・人類学者鳥居龍蔵(1870~1953年)についてまとめ、全国から参加した10校中、第2席に当たる優秀賞をそれぞれ受賞した。研究内容と喜びの声を聞いた。(田尾聡)

鳥居龍蔵研究で全国第2席



ポスターセッションで発表した徳島市立高の(左から)川上さん、益田さん(1人空いて)生駒さん、笠井さん、東京都の明治大



◆鳥居博士はこんな人
徳島市東船場で生まれ、独学で人類学を学んだ。20歳で上京し、東京大学で人類学教室標本整理係を皮切りに講師や助教を務め、1921年に文学博士となった。

◆何を研究した？
人類学や民族学、考古学などを研究し、さまざまな民族の体格や言語、生活文化などを幅広く調査した。国内はもちろん、シベリアや中国西南部など東アジア各地、南米などを訪れ、古代の遺跡などを調べた。

◆功績は？
日本人や日本文化の起源を明らかにすることを目指し「有史以前乃日本」などを著した。

◆県内では？
城山貝塚の発掘調査をはじめ、木頭地方の民俗調査など多くの成果を残している。

論文の正確さ確認

鳥居龍蔵研究を続けている徳島市立高の歴史研究部は、部内に代々引き継がれてきた成果を交えながら「鳥居龍蔵の見た『日本』」と題してポスター発表を行った。

生駒杏部長(17)は「私たちの熱意と研究の深さは、他校に負けない自信があった」と振り返った。

発表したのは生駒部長と、笠井瑠夏さん(17)、川上菜月さん(17)、益田明英さん(17)の4人。鳥居が高校の歴史の

今の時代 見つめ直す

教科書でどのように取り上げられてきたかを示した上で、鳥居の台湾調査の内容を分析した。先住民の身体的特徴を記した「調査表」と「スケッチノート」を調べたのは笠井さん。当初は鳥居が残した論文と調査表とのデータのずれを指摘できると見込んでいたが、逆に鳥居の論文の正確さを思い知る結果になった。「鳥居のすごさが改めて分かり、成果を肯定できる発表になった」

ポスターセッションには、鳥居研究の専門家や海外の研究者らが大勢見学に訪れた。川上さんは、ポスターにまとめた鳥居の研究成果の正確さを、約5時間にわたって説明し続けた。「専門家から主観が入った内容になっている」とも指摘を受けたけれど、発表しながら鳥居への理解が深まったと思う「成長を実感した様子だった」。鳥居の日本人起源説が、戦時中の日本の植民地支配に正当性を与えたとする説もあり、その功績には賛否がある。今回の研究では、それを一面的に判断せず「鳥居は『日本人』とは何かを大きな視点で捉えようとした」と結論づけた。益田さんは「単に鳥居の研究成果の正確さを判定するのではなく、発表を通して今の時代を見つめ直すことができた。私たちが何者かを考えるきっかけになった」と話した。今後は今回の研究内容を論文にまとめて県立博物館に寄稿する予定。生駒部長は「後輩がさらに研究を発展させられるように成果を引き継いでいく」と声を弾ませた。